

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1293500060 | | |
| 法人名 | 有限会社シーシー商会 | | |
| 事業所名 | グループホームつくしの里 | | |
| 所在地 | 千葉県八街市榎戸385-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年2月3日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>・「その人らしさ」をとり戻せるよう、ひとりひとりを、ひとりの人間として耳を傾ける事を事業所として力を入れて取り組んでいます。</p> <p>・利用者の健康状態を常に把握し、早めの受診を心がけて通院はすべて無料で提供しています。</p> <p>・ボランティアによる二カ月ごとに散髪。</p> <p>・年間行事として、お花見、夏祭り、敬老の日、その他イベントに参加。</p> <p>・畑の中の静かな環境にあるホームである。家族で介護をする習慣が強い、なかなか家で看るのが難しい比較的重度の入居者が多いが、通院に同行したり、地元の食材を使ったおいしい食事を作り、管理者と職員が共に、入居者を中心に据えて、事業所として力を入れている「同じ目線」と「笑顔」を大切にケアに当たっている。</p> |
|--|

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.chibakenshakyō.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニケア研究所 | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5F | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月15日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>開設してようやく1年というホームは、JR榎戸駅から徒歩から近い、畑の中の静かな環境にある。ホームでは、職員が元気で笑顔でいることが、入居者の元気と笑顔につながるという気持ちをもってケアにあたっている。入居者の健康状態を第一に考えて、早めの受診を心掛けており、通院には職員が付き添っている。食事には近隣農家で栽培した新鮮野菜などを提供し、食事が楽しみになるよう工夫している。</p> |
|---|

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|---|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を目に付くところに掲示し、職員と理念を共有する為、入居者との関わりの中で理念を生かした介護をしている。 | 理念をホーム内の職員が目につく所に掲示し、職員が入居者と関わる際には、理念を意識するようにしている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 年二回の消防署による消火避難訓練の際、近隣に連絡している。住民の方が犬の散歩がてら当ホームに立ち寄られたりしている。 | 近隣の農家から新鮮な野菜を購入したり、もったりしている。近隣住民が散歩の途中にホームに立ち寄ることもある。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議にて、事業所側から在宅介護している地域の人々の交流を考えている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にて現在の利用者やサービス状況等について報告や話し合いを行い、地域との交流と情報交換できるようにしている。 | 運営推進会議は、第一回目の開催をせばかりであり、今後は行政や地域との様々な情報交換や交流を図るきっかけにしようと考えている。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 介護保険課に定期的に出向き事業所の実情を伝え、カウンターにパンフレットを置かせて頂いて協力関係を築いている。 | 行政の各関係部署へ定期的に出向き、事業所の実情を伝え、パンフレットを置かせてもらうなどの協力関係を築いているところである。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束の研修を受けた職員が全員に説明している衣類を工夫し、つなぎ服を使用しないようにしている。 | 着用する衣類のひもの結び目を変えるなどの工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠もしていない。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者は虐待防止について研修を受け、職員全員に伝え虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は理解はしているが、現在籍者には対象となる人がいない。必要かどうかを見極める為にも制度について学習している。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、契約内容を説明し、その後疑問や不安等を伺い、安心して利用いただけるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置している。又、面会時に利用者や家族の要望等、話しやすい雰囲気の中で、それらの意見を運営に反映させている。 | 主に家族とは面会時に話し合いを重ね、意見や要望を聞き、意見等があった場合は、管理者を中心に対応を考えている。玄関先に意見箱も設置している。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者や管理者は職員の意見や提案を共有し、話し合い反映させている。 | 職員は何か困ったことや疑問があれば、管理者に話すようにしている。代表者との個人面談を行うこともある。 | スタッフ会議などの意見交換や話し合いをする場を作り、そこでの意見・提案等を運営に反映させていくことが期待される。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境をつくり、小さい子供がいる職員に対しても柔軟な労働時間に対応している。研修等に参加し、向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は実践者研修、管理者研修等、受ける機会の確保など働きながらのスキルアップを進めている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者や職員がケアマネ協議会の開催する勉強会の開催する勉強会の活動を通じてサービスの質を向上させている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ホームに慣れていく段階で本人の不安な様子を観察、声かけをしながら些細な言葉や要望に傾聴し、安心した生活が築けるよう信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安や要望をよく話し合い傾聴しながら、安心して利用者さんを入所して預けるよう信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の思いを把握し、希望に添えるよう支援している。健康状態や家族の要望も取り入れている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者を人生の先輩として敬い、共に生きる関係を築く。見守りの中で出来る事はご自分でしていただき困難なところを支援。反対に昔話や経験からのアドバイスを受けお互いに支えあう。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に面会に来ていただいたり、一緒にイベントに参加して頂くなどして、共に本人を支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 声かけするまでも、家族等からの連絡で近所、友人にも面会に見えて頂いている。 | 家族には、入居者の状況を定期的に電話や手紙で連絡している。家族の面会回数は多く、近所の友人が来訪することもある。また、行きつけの床屋に行く人もあり、馴染みの関係継続を支援している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の関係を把握しており、それぞれあった対応をしている。入居者同士の間に入り、会話を広げられる様支援している。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用後なども気軽に立ち寄りいただけるよう声かけしている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時に本人、ご家族の方から思いを伺っており、又本人の訴えに傾聴して希望に添うようにしている。 | 意思表示が出来る人が多いので、直接聞き取りしている。必要に応じて、筆談で意向の把握をすることもある。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時にヒヤリングシートに細かく添って本人、家族等から伺い、個人ファイルに綴じ、職員が見られるようにしている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活、健康管理に努め、必要に応じてケアカンファレンスを開き現状を把握している。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人の望む生活ができるよう、本人やご家族の希望を聞きながら個別計画を立てている。 | 入居者や家族の希望を聞き、職員の意見を業務日誌や直接の聞き取りで把握し、介護計画に取り入れている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子など細かく記録している。情報交換の為に話し合いや管理者への報告を行っている。必要があれば計画の見直しにつなげている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況を把握し、入院時認知症の為に、介護が必要な時に応じて施設側から付き添い介護を支援している。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 八街消防署より消防・避難訓練等、協力を受け支援している。ボランティアによるイベントを開催している。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期受診及び必要に応じて受診できるような体制を取っている。本人や家族の希望を大切に、必要に応じて家族にも同行して頂き、係りつけ医の説明を受けている。 | 以前からの関係を大切にして、必要に応じかかりつけ医への受診を支援している。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護支援専門員は、介護福祉士の資格があり、経験が豊富で日常的に問題が起きた時には相談し、利用者が適切に受診できるよう支援している。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には介護サマリー、退院時には看護サマリーにて互いに情報交換をしている。又、状況に応じて家族、医師、ソーシャルワーカーに相談しながら早期退院できるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 医師からの情報を元に本人及び家族と相談し方針を決めている。医師・家族・施設の連絡を取り合っており方針を共有している。 | まだ重度化した例はないが、今後入居者の状態をみながら、家族や医師と話し合いを重ねていく意向である。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の既往歴等を把握し、医師に急変時に備えての対応の仕方を確認し、職員に受診記録を通して伝えている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防署員の指導の下、消火避難訓練を実施し、万が一の為、消防マニュアルを作っており対応している。地域の方に消防訓練の時に参加依頼をし、協力体制を築いている。 | 近隣の家に訓練参加依頼をし、また夜間想定訓練も行った。隣接する高齢者専用賃貸住宅とも協力協定を結んでいる。近住職員も直ぐ駆けつけることになっている。 | 定期的に訓練を実施し、近隣住民にも参加を呼び掛けるなど協力体制をつくる努力をしているが、今後は、新しくできた団地との連携も視野に入れ、体制を固めていくことが期待される。 |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 無理強いせず、本人の要望を傾聴しながら対応している。トイレの声かけは人前で大声で言わず、耳元で促したり、耳の遠い人に人前を離れてさりげなく誘導する。 | 言葉使いに気をつけ、トイレや入浴などの際にはプライバシーに配慮し、一人になりたい時は自由に居室で休めるよう気を配っている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 能力にあわせ、わかりやすく説明し返事のしやすい質問を心がけている。声が出ない利用者には、筆談やジェスチャーでコミュニケーションを取っている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大まかな生活スケジュールは決まっているが、一人ひとりのペースを大切にして希望に添い、外出や買い物に同行している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望を聞き、本人らしい身だしなみを支援している。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる限り要望に沿い、旬の食材を取り入れ楽しみのある食事を提供している。豆の皮むき、テーブル拭き、下膳などを職員と共に行っている。 | 調理は職員が担当するが、配膳や手伝いなどは入居者が日常的に行っている。準備にも参加出来るよう、食材の買い物にも一緒に行っている。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分の摂取量を観察し、摂取量の低下が見られる方には捕食を提供している。本人の能力に応じた食種(刻みなど)で提供し、見守り、介助している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人の能力に合わせ、歯ミガキ、うがいを行っている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。必要な人には声かけ、誘導、介助を行い、快適に過ごせる様支援している。数名の利用者がオムツやパットの使用が少なくなってきた。 | 排泄チェック表で記録し、必要に応じて排泄介助をしている。体調管理も出来、食事の工夫にもつなげて、入居者は安定した生活を送ることができている。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ヨーグルトや自家製ゼリーを作り、おやつに取り入れれたり、水分摂取量の少ない方などにも、状態に合わせ提供している。排泄チェックにも定期的な排便があるか確認し、個々に対応している。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴曜日は決まっているが、本人の体調や希望に沿うようにし、無理強いはいないように配慮している。 | 入浴の順番も自然に決まっていて、トラブルも無く、全員が楽しんで入浴している。今後も、回数を含め、できるだけ本人の希望に合わせて入浴支援することが期待される。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠時間を把握し、一人ひとりの状況に応じて、休憩を促したり、安心して眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診記録、処方箋、服薬情報にて一人ひとりの内容を理解し、常に症状や急変に気を配り、間違いのないように努めている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出きる人はホーム内の掃き掃除や食器拭き、洗濯物たたみを積極的に手伝って下さいます。ドライブ、買い物によく出かけている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 桜の花見、ホーム関連の招待和太鼓など外出、介護度が高くなかなか外食が出来ないのですが、来年は外食の支援もしていきたいと思っている。 | 近隣の散歩の他、買い物やなじみの床屋、クリーニング店などに出かけている。また、近くの公園にはお弁当を持って遊びに行くこともある。 | ボランティアなどの力も借りて、時には外食を楽しむことができれば、なお良いと思われる。 |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホームつくしの里 自己評価・評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | <p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>事務所にて管理しています。希望により一緒に外出し、買い物に出かけている。</p> | | |
| 51 | | <p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>利用者の希望で電話を対応している。ホーム側で、便箋、切手なども用意している。</p> | | |
| 52 | (19) | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>家庭的な雰囲気の中で、季節感を採り入れた飾り付けや、催しの時の写真等をさりげなく掲示している。トイレ、浴室は分かるように明記している。</p> | <p>日当たりの良い居間には、クリスマスツリーが飾られていた。気になる音や匂いはなく、玄関の観葉植物やテーブルの生花が居心地の良い空間をつくるのに一役を買っている。</p> | |
| 53 | | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>リビングにソファを設置し、一人で庭を眺めたり、気のあった人との談話の場として共用している。庭にイスを置いてくつろげる場を工夫している。</p> | | |
| 54 | (20) | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>家族と相談して、使い慣れたタンス、布団、テレビを使って本人が居心地良く過ごせる様に配慮している。</p> | <p>タンスや布団など好みの物を持ち込み、家族の写真を飾ったりして、一人ひとりが居心地よく過ごせる部屋をつくっている。</p> | |
| 55 | | <p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>ホーム内、トイレ、浴室には手すりが設置され、場所がわかる様に名札をつける。</p> | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所